

請願第 7 号

若葉小学校、けやき台小学校の統合問題についての請願書

- 1 受理年月日 平成28年11月21日
- 2 請願者 立川市若葉町3-63-41
若葉小学校父母の会
代表 岩本 江身子
- 3 紹介議員 大沢 豊、上條 彰一

4 請願の要旨

現在若葉小学校とけやき台小学校の児童数は立川市教育委員会が適正規模とする数を満たしており、この統合計画は性急であります。よって適正ではない人数に減少するまで統合は先延ばし若葉小学校は存続して下さい。けやき台小学校は老朽化が進んでいる為、早急に当初の予定通り大規模改修を進めるべきですが、出来ないのなら調査をし納得のいくデータを公開してください。その結果大規模改修では安全面で問題があり建て替えが必要ならば、若葉校区の児童数に見合った大きさとして下さい。統合時期については児童数の推移を慎重に見守り然るべき時期に検討して下さい。

5 請願の理由

けやき台小学校区を通る五日市街道とすずかけ通りは、立川市内でも交通事故発生率の高い危険な通りです。近年高齢者や小学生が関わる交通事故が急激に増えています。若葉町には高齢者と小学生が多く住む団地が2つあり、その間を通る2つの街道を通学路とする事は大変危険です。統合すれば700人近い児童が毎日行き来する事になります。地域の見守りだけでは安全を守りきれません。

2つの学校にはそれぞれの特色や良さがあり、中学校に上がった子ども達からも良い意味でギャップを感じたという声をよく聞きます。そういった視点から2つの小学校が中学校で合流する事は、今までに無い新しい人間関係を構築できる貴重な機会です。又いじめにあっている子どもにとっては環境を変えるチャンスでもあります。発達心理学の都築先生によれば「不安と期待の両面感情がある子が中学に行って一番伸びる。新しい環境への不安はネガティブではなく子供が行動を起こす動機になる。」とあります。両校が一つになると、実質分離型の小中一貫校になり9年間同じ人間関係が続き、13歳で経験する大切な人間関係の広がりが無くなってしまいます。子ども達が大きく成長する場を奪わないで下さい。

統合すれば約700人ものマンモス校になります。大きな学校は一見活気があるように見えますが、現在500人規模のけやき台小学校でさえ、子ども達や現場の先生の違う様々な学年の子ども達がごった返して移動。授業中は発言したくても、

なかなか番が回って来ません。そして行事のたびに、ついてまわる長い待ち時間。今よりも児童数が増えれば、もっと子ども達に負担をかける事になるでしょう。

現代の子ども達は生きる力が希薄だと言われていています。いじめや少年犯罪は増えるいっぽう、更に低年齢化し内容も悪質なものになっています。なぜ仲間同士、痛みや悲しみに触れ合い心を響きあわせお互いを大切に出来ないのか…子ども達は自分を尊い存在だと思えなくなっている、だから相手のことも愛せないのではないのでしょうか。今の時代子ども達は自分の存在価値を見出せることが何よりも必要なのです。その点若葉小学校は一人ひとりに活躍の場が持てる、ゆとりがあって素晴らしい学校です。子ども達はそんな環境で自分を認めて貰える喜びを知り、日々いきいきと過ごしています。こういった経験が子ども達の生きる力を育むうえで一番必要なのだとおもいます。どうか6歳から12歳の心も身体も大きく成長する大切な時期をのびのび過ごさせてあげてください。